

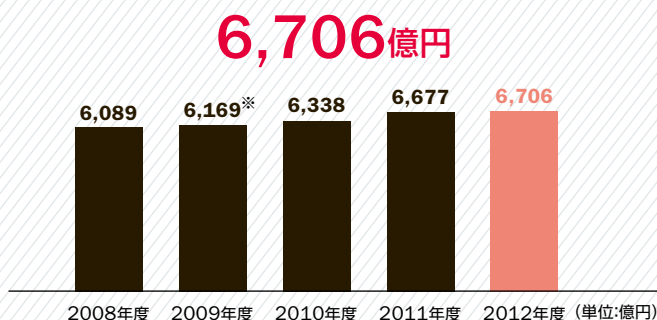
2012年度 財務レビュー

日本経済については、2012年度前半は、海外経済の減速などから景気は弱含みとなりましたが、年度後半以降の国内景気は回復基調となりました。企業部門では、海外経済の減速やエコカー補助金の終了などを背景に輸出や鉱工業生産が減少しましたが、年度後半以降は外需の持ち直しや円安による輸出環境の改善などから鉱工業生産が持ち直しつつあり、企業部門の改善傾向が見られます。家計部門では、全体として横ばい圏での動きとなりましたが、足元では消費マインドの改善により底堅い動きとなっています。今後については、安倍政権の経済政策による国内景気の下支えが期待されます。このような中、アクサ生命は経常収益の柱である保険料等収入に

おいて前年度比0.4%増の6,706億円、新契約年換算保険料においては8.1%減の796億円となりました。変額個人年金保険を除いた場合の新契約年換算保険料は、主に『アクサの「一生保障」の医療保険 OKメディカル』や『アクサの「企業経営」サポートシリーズ就業不能プラン』など第三分野の商品の販売好調によって14.6%増となりました。

収益面では資産運用収益の増加等によって、基礎利益は、前年度比0.8%増の661億円となりました。財務面においても、財務基盤の健全性を確保しており、S&P社の保険財務力格付においても「A+」と高い評価を得ています。

保険料等収入



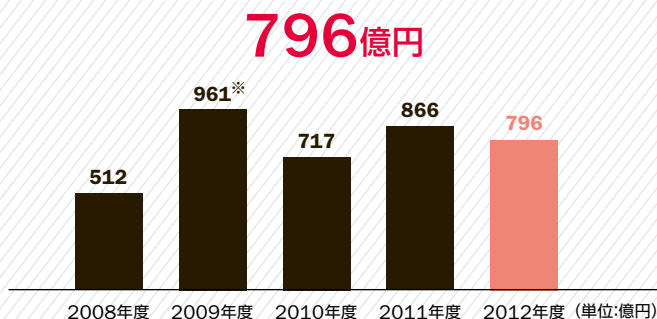
※ アクサ生命は2009年10月1日にアクサ フィナンシャル生命と合併しました。2009年度の期間業績はアクサ生命の通期と合併後の旧アクサ フィナンシャル生命の下半期の業績が合算されたものとなります。

→ 一般事業会社の売り上げにあたる保険料等収入は、前年度比0.4%増の6,706億円となり、増収を達成することができました。

保険料等収入とは?

保険料等収入とは、ご契約者から実際に払い込まれた保険料の総額で生命保険会社の収入の大半を占めており、再保険収入も含まれます。

新契約年換算保険料



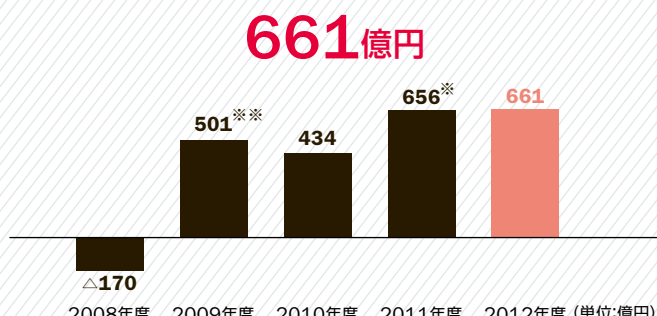
※ アクサ生命は2009年10月1日にアクサ フィナンシャル生命と合併しました。2009年度の期間業績はアクサ生命の通期と合併後の旧アクサ フィナンシャル生命の下半期の業績が合算されたものとなります。

→ 新契約年換算保険料は、前年度比8.1%減の796億円となりました。変額個人年金保険を除いた場合の新契約年換算保険料は、主に『アクサの「一生保障」の医療保険 OKメディカル』や『アクサの「企業経営」サポートシリーズ 就業不能保障プラン』など第三分野の販売好調によって14.6%増となりました。

年換算保険料とは?

年換算保険料とは、契約ごとに異なる保険料の支払い方法の違いを調整し、契約期間中に平均して支払うと仮定した場合に、生命保険会社が保険契約から1年間にどのくらいの保険料収入を得ているかを示しています。

基礎利益



△170 2008年度 2009年度 2010年度 2011年度 2012年度 (単位:億円)

※ 一時的な要因:2011年度は主に+42億円の震災インパクトと-34億円の責任準備金積増額を計上。

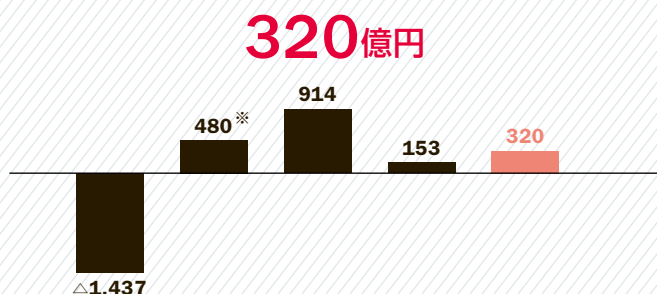
※*アクサ生命は2009年10月1日にアクサ フィナンシャル生命と合併しました。2009年度の期間業績はアクサ生命の通期と合併後の旧アクサ フィナンシャル生命の下半期の業績が合算されたものとなります。

→ 基礎利益は、前年度比0.8%増の661億円となりました。これは運用収支の増加によるものです。2011年度の一時的な要因を除いた場合は、13億円の増益となります。

基礎利益とは?

保険料収入や保険金・事業費支払等の保険関係の収支と、利息および配当金等収入を中心とした運用関係の収支からなる生命保険会社の基礎的な期間収益の状況を表す指標で、一般事業会社の営業利益や、銀行の業務純益に近いものです。経常利益から有価証券の売却損益などの「キャピタル損益」と「臨時損益」を控除して求めます。

当期純利益



△1,437 2008年度 2009年度 2010年度 2011年度 2012年度 (単位:億円)

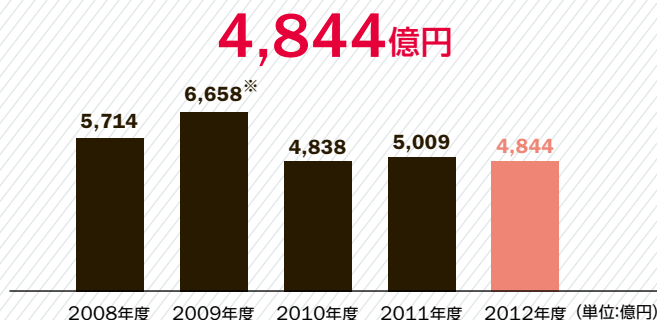
※ アクサ生命は2009年10月1日付でアクサ フィナンシャル生命と合併しました。2009年度の期間業績はアクサ生命の通期と合併後の旧アクサ フィナンシャル生命の下半期の業績が合算されたものとなります。

→ 当期純利益は、前年度比107.9%増の320億円となりました。これは主に基礎利益の増加と有価証券の売却益の増加によるものです。

当期純利益とは?

税引前当期純利益から法人税および住民税ならびに法人税等調整額を控除した金額で、会社のすべての活動によって生じた純利益を意味します。

保険金等支払金



2008年度 2009年度 2010年度 2011年度 2012年度 (単位:億円)

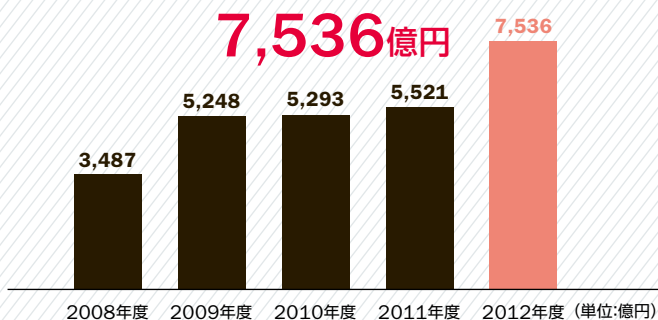
※ アクサ生命は2009年10月1日にアクサ フィナンシャル生命と合併しました。2009年度の期間業績はアクサ生命の通期と合併後の旧アクサ フィナンシャル生命の下半期の業績が合算されたものとなります。

→ 保険金等支払金は、前年度比3.3%減の4,844億円をお客さまにお支払いしました。

保険金等支払金とは?

保険金等支払金とは、保険金、年金、給付金および解約返戻金などの保険契約上の支払金です。(再保険収入も含む)

実質純資産

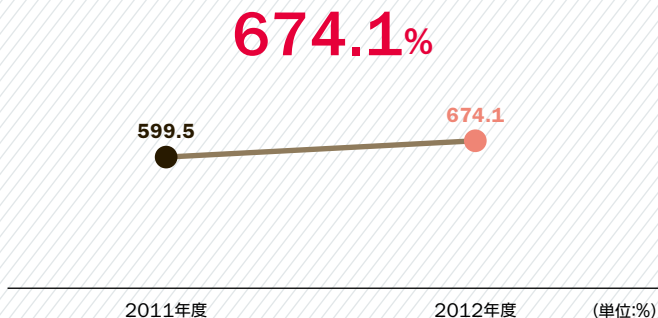


→ 実質純資産は、前年度比36.5%増の7,536億円となりました。

実質純資産とは？

時価ベースの資産から負債（価格変動準備金や危険準備金などの資本性の高い負債を除く）の合計を差し引いて算出します。生命保険会社の健全性を示す行政監督上の指標のひとつで、マイナスになると実質債務超過と判断され、監督当局の早期是正措置の対象となることがあります。

ソルベンシー・マージン比率※



→ 保険金の支払余力を示すソルベンシー・マージン比率は、より厳格化された計算基準においても674.1%と、健全性の基準となる200%を大きく上回る水準を維持しています。

ソルベンシー・マージン比率とは？

生命保険会社は将来の支払いに備えて責任準備金を積み立てており、通常予測できる範囲のリスクには責任準備金で対応できます。ソルベンシー・マージン比率は、通常の予測を超えて発生する大災害や株価の大暴落などのリスクに対し、支払余力を判断するための行政監督上の指標のひとつです。純資産などの内部留保と有価証券含み損益などの合計（ソルベンシー・マージン総額）を数値化したリスクの合計額で除して求めます。この数値が200%を下回ると、監督当局による早期是正措置の対象となります。

※ ソルベンシー・マージン比率は、2011年度より、より厳格化された新基準によって算出されているため、2期分を掲載しています。

S&P保険財務力格付け

A+

→ AXAグループの「戦略的に重要な中核子会社」として、保険財務力について「A+: 保険契約債務を履行する能力は強い」と評価されています。

格付けとは？

独立した第三者である格付機関が保険会社の保険金の支払いに関する確実性をアルファベットなどで表した意見で、アクサ生命はスタンダード&プアーズ(S&P)より保険財務力格付けを取得しています。S&Pの格付基準については右表をご覧ください。

S&P 保険財務力格付けの定義

AAA 保険契約債務を履行する能力は極めて強い。S&Pの最上位の保険財務力格付け。

AA 保険契約債務を履行する能力は非常に強い。最上位の格付け(AAA)との差は小さい。

A 保険契約債務を履行する能力は強いが、上位2つの格付けに比べ、事業環境が悪化した場合、その影響をやや受けやすい。

BBB 保険契約債務を履行する能力は良好だが、上位の格付けに比べ、事業環境が悪化した場合、その影響をやや受けやすい。

(BB以下に格付けされる保険会社は、強みを上回る不安定要素を有する可能性があるものとみなされます)

※ 上記の格付けは2013年6月28日時点の評価であり、将来的には変化する可能性があります。また、格付けは格付機関(スタンダード&プアーズ・レーティング・ジャパン株式会社)の意見であり、保険金支払い等についての保証を行うものではありません。最新の格付けは、格付機関のホームページをご覧ください。